

【芸術選書】

明治浮世絵師列伝

菅原真弓

(大阪公立大学教授) 著

定価三、八五〇円

豊原国周



月岡芳年



落合芳幾



小林清親



江戸から明治へ――

浮世絵が過去のものとなりゆく時代を生きた

「最後の浮世絵師」たち。その百花繚乱の姿。

本書は、明治の浮世絵師である豊原国周（一八三五～一九〇〇）、落合芳幾（一八三三～一九〇四）、月岡芳年（一八三九～九二）、小林清親（一八四七～一九一五）を取り上げてその伝記事項と評価（研究史）をまとめ、かつ概ね二つのトピックを設定して絵師像を詳述していくものである。（中略）現時点においても研究の進捗が見られず、あるいは特殊な注目を集めてしまった明治の浮世絵師たち。しかし絵師一人一人の伝記事項や画業を残された文献資料や作品から検討していくことで、新たな像を提示することができるのではないだろうか。本書では、拙いながらにそれをおこなってきたつもりだが、丁寧に作品を見ていくことで、彼らがどのような「近代」と向き合い、また「近代」に爪痕を残したのかが、少しずつ見えてくるように思われる。

(本文より抜粋)

中央公論美術出版

目次

序	明治の浮世絵と『明治浮世絵師列伝』
第一節	『浮世絵師歌川列伝』と明治浮世絵研究
第二節	明治浮世絵の評価
第一章	豊原国周
第一節	国周の人生
第二節	国周の評価
第三節	国周と「役者絵」
第四節	国周と「美人画」
第二章	落合芳幾
第一節	芳幾の人生
第二節	芳幾の評価
第三節	芳幾と「新聞」
第四節	芳幾と「役者絵」
第三章	月岡芳年
第一節	芳年の人生
第二節	芳年の評価
第三節	芳年と「血みどろ絵」
第四節	芳年と「歴史画」
第四章	小林清親
第一節	清親の人生
第二節	清親の評価
第三節	清親と「風景画」
第四節	清親と「戦争画」
結語	明治の浮世絵と浮世絵研究
第一節	媒体としての「浮世絵」の終わり、 そして「浮世絵研究」
第二節	「浮世絵研究」の中の明治の浮世絵
参考文献	
本書収録図版年表	
あとがき	



【芸術選書】

明治浮世絵師列伝

四六判上製カバー装
本文 272 頁 口絵 8 頁
ISBN 978-4-8055-1502-0
2023 年 3 月刊 C1071
定価 3,850 円
(本体 3,500 円 + 税 10%)

※【芸術選書】とは…

美術史・建築史分野で普遍性のある
テーマを専門性を担保しつつ、専門家
と読者を架橋する新シリーズです。

【著者略歴】

菅原真弓 (すがわら・まゆみ)

学習院大学大学院人文科学研究科哲学専攻博士後期課程
単位修得退学。博士(哲学)(学習院大学)。現在、大阪
公立大学大学院文学研究科教授。

〔主要業績〕

辻惟雄 編『激動期の美術 幕末・明治の画家たち〔続〕』
ペリかん社、2008 年(共著)
『浮世絵版画の十九世紀 風景の時間、歴史の空間』ブリ
ュッケ、2009 年
町田市立国際版画美術館監修『謎解き浮世絵叢書 月岡
芳年「和漢百物語」』二玄社、2011 年
『月岡芳年伝 幕末明治のはざまに』中央公論美術出版、
2018 年

関連書籍のご案内



月岡芳年伝 幕末明治のはざまに

菅原真弓 著【第 69 回芸術選奨文部科学大臣新人賞(評論等)受賞】

死してなお〈時代〉に寄り添った、
ある浮世絵師の生涯と画業。

滅びゆく浮世絵の歴史の掉尾に位置し、今なお鮮烈な印象を与え続ける
月岡芳年(1839-1892)。三十歳で明治維新に立ち会った絵師は、激動
の時代を直視し、変転する「浮世」をリアルに描ききった。
伝記・回顧録などの資料を博搜し、作品主題と構図に緻密な分析を加え、
血肉を備えた一人の浮世絵師の人物像を浮かび上がらせる。
芳年論の《決定版》。

定価 3,960 円(本体 3,600 円 + 税 10%)

A 5 判半上製カバー装 本文 432 頁 口絵 24 頁 2018 年 10 月刊

ISBN 978-4-8055-0854-1

刊行スタート!

【芸術選書】



鑑定学への招待

「偽」の実態と「観察」による判別

杉本欣久(東北大学准教授) 著

「真」か「偽」かー。
美術史研究の世界でタブー視されてきた、
美術作品をめぐる「鑑定」の入門書。
観るべきポイントを丁寧にひもといていく。

定価 3,520 円(本体 3,200 円 + 税 10%)

四六判上製カバー装 本文 212 頁 口絵 8 頁

2023 年 3 月刊 ISBN 978-4-8055-1501-3

中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1
IVYビル 6F

TEL 03-5577-4797 FAX 03-5577-4798

お問い合わせ